

目的 前編と同様である。

方法 前編と同様である。

結果 ①現在、日本が当面している問題として「社会保障制度のおくれ」・「住生活水準の低さ」を指摘する傾向が強くなり、次いで「労働・経済的側面」・「人的側面」の問題があげられている。地域別特性として、大都市部では前者2項目への指摘が、農村部では後者2項目への指摘がそれぞれ相対的に高くなっている。「衣生活・食生活水準の低さ」・「教育・医学・治安水準の低さ」を問題点として指摘する者は僅少であり、これらの項目に対しては都市化の程度に関わらず共通して肯定評価されている。②家庭生活における重視・非重視項目を捉えてみると、各地域共通して「家族の健康維持」・「だんらの充実」が上位2項目を占め、非物質的な側面の充実に対する関心が高く、逆に「衣服」・「住宅」・「家具電化製品」といった物質的な側面への関心は低い。地域差のみられる項目としては、「経済面の安定」は農村部で、「教育面の充足」は大都市部でそれぞれ重視されており、生活環境と重視内容に相関がみられる。③家庭生活全体の評価は、各地域共に、中流意識が大勢を占め、また農村部ほど家庭生活のより充実を望む意識が強い。

まとめ ①人々は現在の都市化現象に、地域差を有しながらも全体的には否定的評価をする傾向が強い。②家庭生活の重視度では地域別意識差がみられ、農村部ほど経済的側面の重視度が高まる特徴がある。即ち農村居住者は今以上の都市化の進行に危惧を抱く一方、都市化に裏づけられた生活の向上は求めたいとする意識も同時に含んでいると言える。